

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

2024年 12月 25日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会長 藤 洋作 様

所属部局 医学研究科

職 名 特別教授

氏 名 本庶 佑

助成の種類	令和6年度・国際会議開催助成		
国際会議名	1st International Symposium on Immunotherapy and Immunobiology		
開催期間	2024年 11月 13日 ～ 2024年 11月 15日		
開催場所	京都大学医学研究科附属がん免疫総合研究センター		
参加者	総数 600名	内訳 オンサイト 310名、オンライン 290名	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会計報告	事業に要した経費総額	72,167,237 円	
	うち当財団からの助成額	1,000,000 円	
	その他の資金の出所	自己資金(大学運営費、寄附金)、助成金(国際医学研究振興財団)	
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	旅費	37,149,769	1,000,000
	運営委託費	18,790,151	
	各種制作物	7,915,000	
	記録作成	4,004,000	
飲食費	3,887,737		
その他	420,580		
	合 計	72,167,237	1,000,000
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) ご支援いただき、心より感謝申し上げます。		

開催報告

がん免疫総合研究センターCCII オープニングイベント

「1st CCII International Symposium on Immunotherapy and Immunobiology」

日 時：2024年11月13日（水）－15日（金）

場 所：京都大学がん免疫総合研究センターBristol Myers Squibb 棟

主 催：京都大学がん免疫総合研究センター

参加者：約 600 名（3日間のべ数）

言 語：英語



【集合写真。中央が本庶センター長】

プログラム：テーマ（仮訳）【参加者数】

Day1

Session 1: T Cell Therapy (T 細胞療法) 【200 人】

Session 2: Myeloid Cells, PD-1 and Beyond 【195 人】

(骨髄系細胞、PD-1 とその先にあるもの)

Session 3: Immunometabolism (免疫代謝) 【223 人】

Session 4: Cancer Antigens and Tolerance (がん抗原と免疫寛容) 【205 人】

Workshop : Poster Clinic (若手研究者向けポスター改善講座) 【20 人】

レセプションディナー

Day2

Session 5: Novel Therapeutics for Cancer (がんに対する新規治療) 【167 人】

Session 6: Immunotherapy for CNS, Head and Neck Cancers 【175 人】

(中枢神経系、頭頸部がんに対する免疫療法)

Session 7: Inflammation, Metabolism and Tumor Immunity 【205 人】

(炎症、代謝と腫瘍免疫)

Session 8: CD8 T Cells Biology (CD8 T 細胞生物学) 【180 人】

交流会

Day3

Session 9: Tumor Diversity, Susceptibility and Resistance I 【155 人】

(腫瘍の多様性、感受性と抵抗性 I)

Session 10: Tumor Diversity, Susceptibility and Resistance II 【156 人】

(腫瘍の多様性、感受性と抵抗性 II)

本国際シンポジウムは、2024年11月12日に開催された、がん免疫総合研究センター(CCII)開所式典に続いて開催され、がん免疫研究の世界的拠点となることを標榜するCCIIのスタートを堂々と宣言するものとなりました。

計 28 名の現役研究者による各発表はいずれも免疫分野の最先端研究を紹介するものであり、がん免疫療法における画期的な発見から免疫系調節における革新的なアプローチまで、そのすべてで、厳格かつ意欲的なディスカッションが展開されました。

セッション外でも、コーヒーブレイクやレセプションディナーでは、参加者が世代や、細かな分野の枠を超えて交流し、経験豊富なリーダーとキャリア初期の若手研究者が活発な意見交換を行う機会を提供することとなりました。CCII が知識の共有と相互尊重を促す場であることをアピールする結果となりました。

3 日目のポスターセッションも印象的で、丁寧に作り込まれたプレゼンテーションを前に、研究者たちによるオープンで活気のある対話が展開されました。若手研究者は情熱を持って自身の研究を発表し、シニア研究者たちが有益なフィードバックを提供します。この活気のある意見交換は、がん免疫における科学コミュニティの成長を促し、分野における知見の共有・協力・進展という、国際シンポジウムならではの効果を生みだしました。

また、若手研究者に焦点を当てれば、1 日目に実施したワークショップは「Poster Clinic」と題し、若手研究者にとっては貴重な発表の場であり、主戦場ともなるポスターセッションをいかに有効に用いるかについて、欧州分子生物学機構(EMBO)の出版部門から講師を招いて実践的な講義を行いました。これは若手研究者育成という CCII の目的の端的な具現化であったといえます。

シンポジウム開催の一つの肝は、一流の研究者を世界中からどれほど招へいし、主催者による学術的議論にどれほど巻き込み、主催地発の科学的潮流を生み出していけるかです。その成否は科学史においてはじめて証明されるものですが、その点において本シンポジウムの成功を確信してやみません。

貴財団よりいただいた助成金は、まさにその海外研究者の招へい費用（旅費）に充当させていただきました。

心より御礼申し上げます。



【CCII 西川教授による発表と質疑応答】



【ポスターセッション会場の様子】